

## 柱 RC 梁 S 構法の接合部に関する施工実験

細井 泰行<sup>1)</sup>, 高橋 祐一<sup>1)</sup>, 富田 祐介<sup>1)</sup>, 吉田 成男<sup>2)</sup>, 岩崎 利彦<sup>3)</sup>

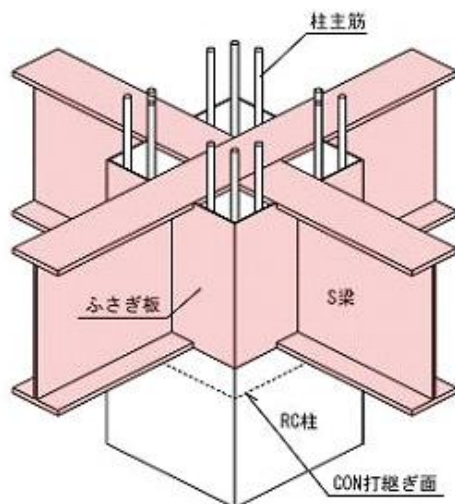
### Construction Experiments on Mixed Structural System with Reinforced Concrete Column and Steel Girder

Yasuyuki Hosoi<sup>1)</sup>, Yuichi Takahashi<sup>1)</sup>, Yusuke Tomita<sup>1)</sup>, Nario Yoshida<sup>2)</sup> and Toshihiko Iwasaki<sup>3)</sup>

#### ■ 要 旨 ■

五洋式柱 RC 梁 S 構法 (P-RCS 構法) は、柱に剛性の高い RC 造を用い、梁に軽量で大スパンにも対応できる S 造を用いた構法であり、RC 造や S 造のそれぞれの特長を活かした設計が可能となる。

P-RCS 構法の柱梁接合部は、異種構造である RC 柱と S 梁とを接合する構造上重要な部分であり、施工時には柱梁接合部の鉄骨の設置方法や、コンクリートの充填性をどの様に確保するかが課題となる。特に物流倉庫のように階高が高い建物では、柱梁接合部の直下で柱を打ち継ぐことが多く、その場合には鉄骨梁の下フランジ面から打継ぎ面まで、コンクリートが充填できるだけの隙間を確保する必要があり、その隙間を確保するためのスペーサーについても検討する必要がある。そこで、本報では実大の柱梁接合部の試験体を製作し、これらの課題について検証する。



柱梁接合部詳細



試験体切断面

1) 技術研究所 建築技術開発部  
2) 建築本部 技術部  
3) 東京建築支店